

手シヨク亭主が心得出置コトアル口傳○中略

一夜會茶湯の事路地石燈籠ニ火ヲトボシ夜のあけぬ内は路地ニ水うたぬ事也中立之時分夜あけぬれば水打申事也扱カコイノ内アンドウ也亭主炭の時手シヨク出ス事定りたる事也

〔茶之湯六宗匠傳記五〕小堀遠江守宗甫公自筆の寫

一夜會に所々の道筋に石燈籠有みなく火を燈すべし又石燈籠うへ込の内に有景の能物なり是にも燈すべし

一夜會の時待合腰懸共に行燈を燈し置べし刀かけの脇の石には手燭に火を燈すべし數寄屋の床に短檠に油火を燈すべし燈眞五筋か七筋たるべし尤長どう玄んにして後穴よりさげ置べし

〔和泉草三〕夜會

一夜會ノ仕方種々有之儀也畢竟ハ朝ニモ晩ニモ晝ニモ不似様ニ万事ヲ可仕成此外ハ功者ノ夜會ニ逢テ知ルベシ

〔三百箇條上之〕一夜會に時により掛物をかけざることも有掛る事も有

〔三百箇條下之〕一總別夜會之事

口傳曰夜會は中にも心持肝要之數奇にて候然るにおき合せも別のおき合せあり幾度も不審し相傳を請べし利休織部も本の夜會は度々は無之よし申つたへ候也

〔茶式花月集二〕夜咄之事

前茶ノ道具水指ノ代リ藥罐片口ノ類ヲ用ユ前茶ノ道具後座ニハ殘ラズ替ル建水替ルニ不及前茶ノ節烟草盆カ又ハ總菓子カ兩ヤウノ内一品出ス後薄茶ノ節ハ濃茶ノ道具遣フ素床ノ節掛物好ム事ナシ但シ口切等通り道具ニテ相用候掛物格別聞及々ナラバ好ム見終テハツサレヨトノ挨拶ニ不及